

# 分散リソースの拡大で変わる電気事業

諸住 哲 (もろすみ さとし) 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 スマートコミュニティ部 統括研究員

要約 前回「再生可能エネルギー大量導入時代」の寄稿 (No.210) の中で、世界的に太陽光を中心とする再生可能エネルギーのコストが下がり、住宅用の電気料金に対して、太陽光発電が競争力を持つ時代となってきたことを紹介した。実は、この情勢の変化を受けて、電気事業の在り方が欧米を中心に急激に変容を遂げようという兆候が出てきている。その変化は、通信事業やその他の公共サービスで過去に起こった変化を追従するように動いているように見え、ゆえに、電力業界で起こりつつある変化は我々の社会システム全体で起こっている変革の一部にすぎないのかもしれない。今回は、住宅用では電気料金の月額定額制まで見え始めてきた世界での電気事業の変革をレポートし、併せてその動きを追従すべく展開している NEDO 国際実証の概要を解説する。

## 1. まえがき

太陽光発電や蓄電池の価格低下が顕著な中、世界的に太陽光発電などの導入優遇策である電力会社の買取制度が終焉しつつある一方、大量に導入されつつある太陽光発電を中心とした分散リソースの活用に関する

系統運用の視点での変革、新しいビジネスモデルの模索が始まっている。NEDO は図 1 に示すような多数の海外でのスマートコミュニティ実証を 2009 年から行っているが、各プロジェクトとも、過去 5 年で世界のビジネスモデルの変革に直面しながら、ある意味今後日本で起こる同様の変革に必要なノウハウ、知見を蓄積しているともいえる。NEDO が言うコミュニティ

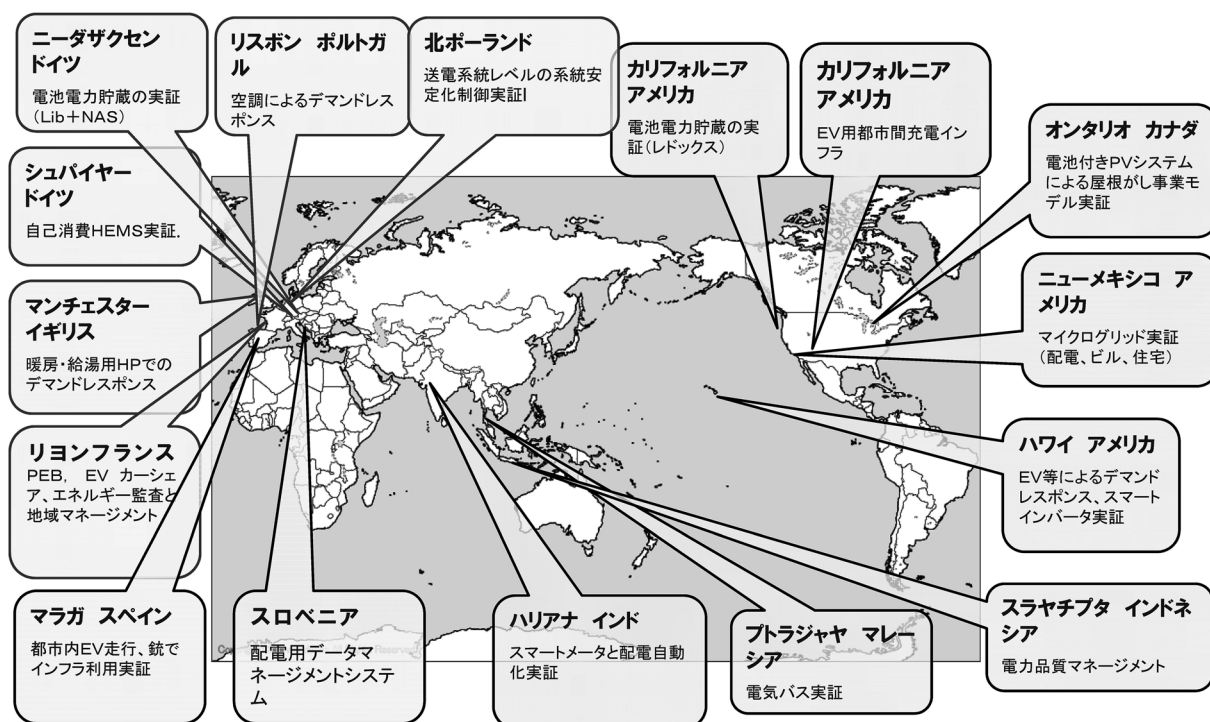


図 1 NEDO の国際スマートコミュニティ実証